



No.014 オープンイノベーション



「オープンイノベーション」はハーバード大のチェスブロウの提唱以来、ずいぶん使い古された言葉です。しかし日本ではいまだそれが実践に生かされているとは言い難い状況です。

日本の企業体質はまさにこの反対、クローズドです。自社内で完結させる自前主義にこだわり、研究開発部門も人材や知財を囲い込むことに力を注ぎます。しかし技術の外部流出を心配し、従来の顧客を満足させることだけに目を向けていては、漸進的な製品改良はできても、世界を変える破壊的イノベーションは生み出せません。

要は外部のアイデアや人材を使ってオープンに自社の技術シーズを开花させるのです。従来なかった顧客とのコンタクトで新たなニーズとのマッチングを図り、スタートアップと組んで思い切って虎の子の技術を他人に委ねる。スピンアウトしてうまく資金が回れば、グループ全体の企業価値が高まる。こんな言い古されたことすら、まだ躊躇している大手企業が多いのが日本の実情です。

スキルを持った人材が大企業に囲われ、スタートアップに資金が回らない限り、日本経済が勢いを取り戻すことはないだろうと言ったのは、「イノベーションのジレンマ」を書いたクリステンセンでした。その通り、日本は世界のイノベーションに2周も3周も遅れています。